

でがすな”と屋台のおやじに声をかけられるのは寒中のことで、寒夜に働く者の間に湧く親しみはわが楽みの一つでもある。

しかしこのような季節の移り変わりも実は観測には決してよい結果をもたらすものでない。緯度観測にして経度観測にしてできれば恒温恒圧の状態のもとで行ないたい。そうすれば温度補正の苦労もいらぬ。リフレクションの変化も小さいであろう。この点水沢は恵まれていない。夏冬の温度の差は月平均気温で 25°C 位もある。最高、最低温度の極値の差は平年でも約 50°C に達する。このような大幅な温度変化の中に観測器械は置かれている。気圧にしても同様で高、低気圧が入り代り立ち代り訪れる。したがって日照もなをまた大きく変わる。

これにくらべるとレンバンは天文観測にとっての天国といえよう。まったく天然の恒温・恒圧の実験室の観がある。そのためかどうか、浅い経験ではあるが、時刻観測で方位誤差がよく揃った。そしてそれがはっきり年周変化を示しているようにみえて興味があった。雨後は大きく変わったが、2、3日で安定した。こんな時は観測がうまくできているような気がしてうれしかった。私は水沢に帰ってからも時刻観測を続けた。当所の子午儀は関東震災の傷痕があり軸には錆のあとさえあったので方位誤差を決めるのに一苦労した。しかしこれには水沢の気象条件も大いに関係しているような気がしてならない。私はレンバンで気象観測も行なった。その記憶では最高極値 29°C 最低極値 18°C、1日の気温の較差は 5°C から 7°C

位である。

気圧に至っては余りに変化が小さい。それで戦前は気圧の測定をしなかったといていた。また低気圧の襲来もない。空気は清澄で星の像もよい。シンチレーションも小さかったように思う。ただ乾季と雨季がはっきりしていて雨量や湿度の年周的变化は顕著である。太陽は年間を通じて観測室の南測と北測を一樣に照らしてくれる。観測日数は水沢よりはるかに多い。このようにレンバンは気象的に安定した珍しい場所でジャワ島全土が大体同じような傾向にある。しかしレンバンはタンクープンプラフー火山の中腹にある。活火山か死火山か知らないが今でも頂上の噴火口から熱い水蒸気を噴出している。そんなわけで地盤の安定はよくないかも知れない。

これに引きかえパトビヤ観測所チリリタンは海岸に遠くない平地にある。ここの月平均気温の年周の振幅は 1°C~1.5°C 位である。また月平均気圧の年周の振幅は 1mm^b に達しない。また緯度がゼロに近いことは極運動観測に対する大きな魅力であらう。

釣は一場所、二腕、三道具という。その順序はとも角天文観測でも同様なことがいえそうである。私はこの気象的に恵まれたよい場所レンバンで観測することができたことを観測者の冥利と思っている。もしも“今後の極運動観測事業に何を望むか”とのアンケートを受けるようなことがあったら私は躊躇なく、“今一度ジャカルタに観測所を復活して下さい”と書くつもりである。

学会の頁

欧文報告編集係からのお知らせとお願い

1. 2年程前から欧文報告にレフリー制をもうけ、すでに多くの方々にレフリーをお願いしておりますが、レフリーとしてお骨折りをいただいた方々にお礼を申し上げたいと思います。

2. 欧文報告に掲載した論文について、今まではかなり高額の見直しを著者の方々にお願いしておりましたが、その後学会の経済状態も欧文報告の売上げ部数増加などにより好転していますので、見直しの値下げに努力したいと思います。

3. 欧文報告の海外での評判もよく、売上げもふえているのですが、英文がまずいという批評もききます。英文にとくに自信のある方はともかくとして、論文の英文は外国人に一度見てもらうことをおすすめしたいのです。原稿の下書きを外国の同学者に送り、頼んで英文を直してもらおうといった手段はいかがでしょうか。

4. 最近印刷所の植字工の方の努力で、校正刷での植字の誤りが非常に少なくなっています。原稿に誤りがなく、初校の校正を間違いなくすれば再校で校了となる場

合もあるわけなのです。したがって、初校で原稿の誤りを大量に直されたり、再校以下で原稿を直されたりすれば、印刷所や編集係は大変迷惑することがあります。

この際、お送りいただく原稿を誤りのない完全なものにしていただくこと、初校をめんみつに見ていただくことをとくに著者の方々にお願いいたします。

5. 原稿は一応、2月、5月、8月、11月の末に印刷所に送ることになっていますが、その前に原稿はレフリーの手を通ります。

6. 文献の書き方は、次のようにしました。

引用文献の書き方

引用文献を通し番号であらわす従来の方式以外に、文献を著者名と年数であらわす方式も用いてよいことに暫定的にきめました。いずれの方式の場合も著者名は大文字と小さい大文字でかくことは従来どおりです。本を引用する場合、完全な題名、編者が別にあるときはその名前、出版地と出版社名、章または頁数、出版年をかくこと、おのおのの様式のくわしい方法は次の例から見て下

さい。

1) 通し番号で引用文献をあらわす方法. 従来の欧文報告に用いられたものですが肩つきのかわりに本文活字と同じ大きさでゴチ数字を両カッコでつつみます。

The early contracting phase of solar evolution is of great interest to any theory of formation of the solar system (1, 2). In a very important and now well-known paper, HAYASHI (3) has shown that gravitational contracting stars in the pre-main sequence phase will be in convective equilibrium during the considerable part of their contraction. His conclusion was confirmed by subsequent investigations on the same problem (4, 5), while FAULKNER, GRIFFITHS and HOYLE (6) found that no other factors except the presence of magnetic field are likely to destroy the convective structure. Thus the corresponding track of HAYASHI's stellar models in the H-R diagram must be drastically different from the usual radiative one which is found in various textbooks (7, 8, 9).

References.

- (1) F. HOYLE, *Quart. J. Roy. Astr. Soc.*, **1**, 28, 1960.
- (2) A. G. W. CAMERON, *Sky and Tel.*, **23**, 244, 1962; *Icarus*, **1**, 13, 1962.
- (3) C. HAYASHI, *Publ. A. S. Japan*, **13**, 450, 1961.
- (4) R. WEYMANN and E. MOORE, *Ap. J.*, **137**, 552, 1963.
- (5) D. EZER and A. G. W. CAMERON, *A. J.*, **67**, 575, 1962; *Icarus*, **1**, 422, 1963.
- (6) J. FAULKNER, K. GRIFFITHS, and F. HOYLE, *M. N.*, **126**, 1, 1963.
- (7) G. R. BURBIDGE and E. M. BURBIDGE, in *Encyclopedia of Physics*, ed. S. FLÜGGE, Berlin, Springer-Verlag, **51**, 160, 1958.
- (8) M. SCHWARZSCHILD, *Structure and Evolution of the Stars*, Princeton Univ. Press, § 19, 1958.
- (9) D. H. MENZEL, P. L. BHATNAGAR, and H. K. SEN, *Stellar Interiors*, London, Chapman and Hall, p. 254, 1963.

2) 著者名と年数で引用文献をあらわす方法. A. J., や *Ap. J.*, で使われています。

The early contracting phase of solar evolution is of great interest to any theory of formation of the solar system (HOYLE 1960; CAMERON 1962 a, b). In a very important and now well-known paper, HAYASHI (1961) has shown that gravitational contracting stars in the

pre-main sequence phase will be in convective equilibrium during the considerable part of their contraction. His conclusion was confirmed by subsequent investigations on the same problem (EZER and CAMERON 1962, 1963; WEYMANN and MOORE 1963), while FAULKNER, GRIFFITHS, and HOYLE (1963) found that no other factors except the presence of magnetic field are likely to destroy the convective structure. Thus the corresponding track of HAYASHI's stellar models in the H-R diagram must be drastically different from the usual radiative one which is found in various textbooks (e. g., BURBIDGE and BURBIDGE 1958; SCHWARZSCHILD 1958, Sec. 19; MENZEL, BHATNAGAR, and SEN 1963, Sec. 13. 2).

References.

- BURBIDGE, G. R., and BURBIDGE, E. M. 1958, in *Encyclopedia of Physics*, ed. S. FLÜGGE, Berlin, Springer-Verlag, **51**, 160.
- CAMERON, A. G. W. 1962 a, *Sky and Tel.*, **23**, 244.
- . 1962 b, *Icarus*, **1**, 13.
- EZER, D., and CAMERON, A. G. W. 1962, *A. J.*, **67**, 575.
- . 1963, *Icarus*, **1**, 422.
- FAULKNER, J., GRIFFITHS, K., and HOYLE, F. 1963, *M. N.*, **126**, 1.
- HAYASHI, C. 1961, *Publ. A. S. Japan*, **13**, 450.
- HOYLE, F. 1960, *Quart. J. Roy. Astr. Soc.*, **1**, 28.
- MENZEL, D. H., BHATNAGAR, P. L., and SEN, H. K. 1963, *Stellar Interiors*, London, Chapman and Hall.
- SCHWARZSCHILD, M. 1958, *Structure and Evolution of the Stars*, Princeton Univ. Press.
- WEYMANN, R., and MOORE, E. 1963, *Ap. J.*, **137**, 552.

◇ 春季年会のおしらせ

1965年度の春季年会を下記のように開催いたします。会員諸氏の御参加をお待ちいたします。

日時：1965年5月7日(金) — 9日(日)。

場所：東京本郷，東京大学理学部2号館講堂(7日，8日)および文学部教室(9日)。

年会講演のスライド映写希望者は，スライド画面を映してほしい方向に手にとった状態で，その枠の上方に左から講演番号，氏名，映写番号を記入し，さらにスライド枠の下端に带状に5mm幅の赤線を引いておいて下さい。

予稿集は，特別会員には一部無料で差上げます。二部以上御入用の方，または通常会員で御希望の方は一部につき実費70円(送料共)をそえてお申込下さい。